

令和5年9月13日

千葉県農林総合研究センター長

## I 向こう1か月の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。また、予報の根拠の(+)は多発要因、(-)は少発要因であることを示す。並[発生なし]は平年並で、今年発生がないことを示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
サツマイモ	ナカジロシタバ	並	9月上旬発生量：並 気象予報：気温高(+) 降水量並	・ 早期発見に努め、多発ほ場では薬剤防除する。
	イモキバガ	やや少	9月上旬発生量：やや少(-) 気象予報：気温高(+) 降水量並	
秋冬ネギ	黒斑病	やや少	9月上旬発生量：少(-) 気象予報：降水量並	・ 肥料切れしないようにする。
	ネギアザミウマ	やや少	9月上旬発生量 被害度：少(-) 寄生株率：少(-) 気象予報：気温高(+) 降水量並	・ 多発ほ場では、防除効果の持続性が期待できる粒剤の土壌処理と併せて、即効性が期待できる薬剤の地上部処理などにより、防除する。
	ネギハモグリバエ	やや多	9月上旬発生量：やや多(+) 気象予報：気温高(+) 降水量並	・ ネギハモグリバエについては、 <u>令和4年度病害虫発生予報第2号P4「これから注意を要する病害虫」</u> も参照する。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
夏秋トマト	すすかび病	並	8月下旬発生量：並 気象予報：降水量並 日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の換気を十分に行う。</li> <li>発生初期から薬剤防除する。</li> </ul>
	アザミウマ類	やや少	8月下旬発生量：やや少（－） 気象予報：気温高（＋） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> <li>発生初期から薬剤防除する。</li> </ul>
	黄化葉巻病	多	8月下旬発生量 黄化葉巻病：多（＋） タバココナジラミ：多（＋）	<ul style="list-style-type: none"> <li>黄色粘着トラップの設置等で発生を的確に把握し、初期から薬剤防除する。</li> <li>タバココナジラミは黄化葉巻病を、また両種は黄化病を媒介するので、これらの発病にも注意し、発病株は抜き取ってハウス外に持ち出し、適切に処分する。</li> <li>黄化葉巻病は、令和4年度病害虫発生予報第8号P4「これから注意を要する病害虫」も参照する。</li> <li>施設内外の除草等で耕種的防除に努める。</li> </ul>
	タバココナジラミ	多	8月下旬発生量：多（＋） 気象予報：気温高（＋） 降水量並	
	オンシツコナジラミ	やや多	8月下旬発生量：やや多（＋） 気象予報：気温高（＋） 降水量並	
温州ミカン	ミカンハダニ	やや多	8月下旬発生量：並 気象予報：気温高（＋） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> <li>秋ダニに注意する。寄生葉率が20%以上の場合に薬剤防除する。</li> </ul>
	カメムシ類	やや多	8月下旬発生量 温州ミカン：並〔発生なし〕 8月予察灯誘殺数 ：多（＋） 8月フェロモントラップ誘殺数 ：やや少（－）	<ul style="list-style-type: none"> <li>カメムシ類の発生量は、地域間差が大きいため、果樹園への飛来状況は地域や園地により大きく異なる。そのため、園内外をこまめに見回り、発生を認めたら、薬剤防除する。</li> <li>薬剤防除する場合は、収穫前使用日数に注意する。</li> </ul>

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
野菜・花き共通	コナガ	やや少	8月フェロモントラップ誘殺数 ：少（－） 気象予報：気温高（＋） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> <li>育苗中から防除を徹底する。</li> <li>老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、発生初期に防除を行うよう心がける。</li> <li>薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統の薬剤の連用は避け、数系統でのローテーション散布を行う。</li> </ul>
	ハスモンヨトウ	並	8月フェロモントラップ誘殺数 ：並 8月下旬発生量 夏秋トマト：並 [発生なし] 9月上旬発生量 サツマイモ：並 [発生なし] 秋冬ネギ：並 [発生なし] サトイモ：やや多（＋） 気象予報：気温高（＋） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> <li>早期発見に努め、卵塊及び集団状態の幼虫を捕殺する。</li> <li>幼虫が大きくなると薬剤の効果が低下するので、幼虫が分散する前の若齢期に薬剤防除する。</li> </ul>
	シロイチモジヨトウ	多	8月フェロモントラップ誘殺数 ：多（＋） 9月上旬発生量 秋冬ネギ：多（＋） 気象予報：気温高（＋） 降水量並	
	タバコガ類	多	8月フェロモントラップ誘殺数 オオタバコガ：多（＋） タバコガ：多（＋） 8月下旬発生量 夏秋トマト：並 [発生なし] 気象予報：気温高（＋）	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設栽培では、開口部を防虫網で被覆することにより成虫の侵入防止を図る。</li> <li>幼虫は見つけ次第捕殺する。</li> <li>薬剤防除は若齢幼虫期に行う。</li> </ul>

## II その他の情報

**ビワを加害するチャバネアオカメムシの発生について～来年は多発生が予想されます！～**

果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）の越冬後成虫による果実被害は、5月下旬から6月にかけて収穫時期となるビワで問題となる。特にチャバネアオカメムシは発生量の年次変動が激しく、多発生する年には甚大な被害を及ぼす。

このため、前年に越冬後成虫の発生量を予測することが、二重袋<sup>(注1)</sup>の手配など、早期に防除手段を選択するための産地情報として重要である。

チャバネアオカメムシ早期発生予測モデル<sup>(注2)</sup>を用いて、2024年4～7月までの南房総地域におけるチャバネアオカメムシの誘殺数を予測した結果、多発生の予想となった(図)。

このことから、普段果樹カメムシ類の被害がないほ場でも被害が発生する恐れがある。そのため、飛来が始まる4月下旬以降に園内外をよく見回り、各ほ場での発生に注意する。また、今後発表される発生予察情報にも留意する。

注1：二重袋は果実をパラフィン紙で筒状に覆い、さらに外側を慣行袋で包むことで、果樹カメムシ類が刺す外側の袋と果面の間に空間が確保され、吸汁を抑制する効果がある。

注2：本予測モデルは南房総地域のスギ雄花生産量（千葉県農林総合研究センター森林研究所による）と果樹カメムシ類の集合フェロモントラップ誘殺数を用いて次年度の越冬成虫数を予測する式で、千葉県農林総合研究センター（暖地園芸研究所）が開発した（詳細は <https://www.pref.chiba.lg.jp/ninaite/shikenkenkyuu/h27.html> を参照）。

予測モデルによる南房総地域におけるチャバネアオカメムシ越冬後予想発生量（4～7月）は、トラップ当たりの誘殺数が1～100頭未満の場合は少発生、100～1,000頭未満の場合は中程度の発生、1,000頭以上では多発生と予想される。

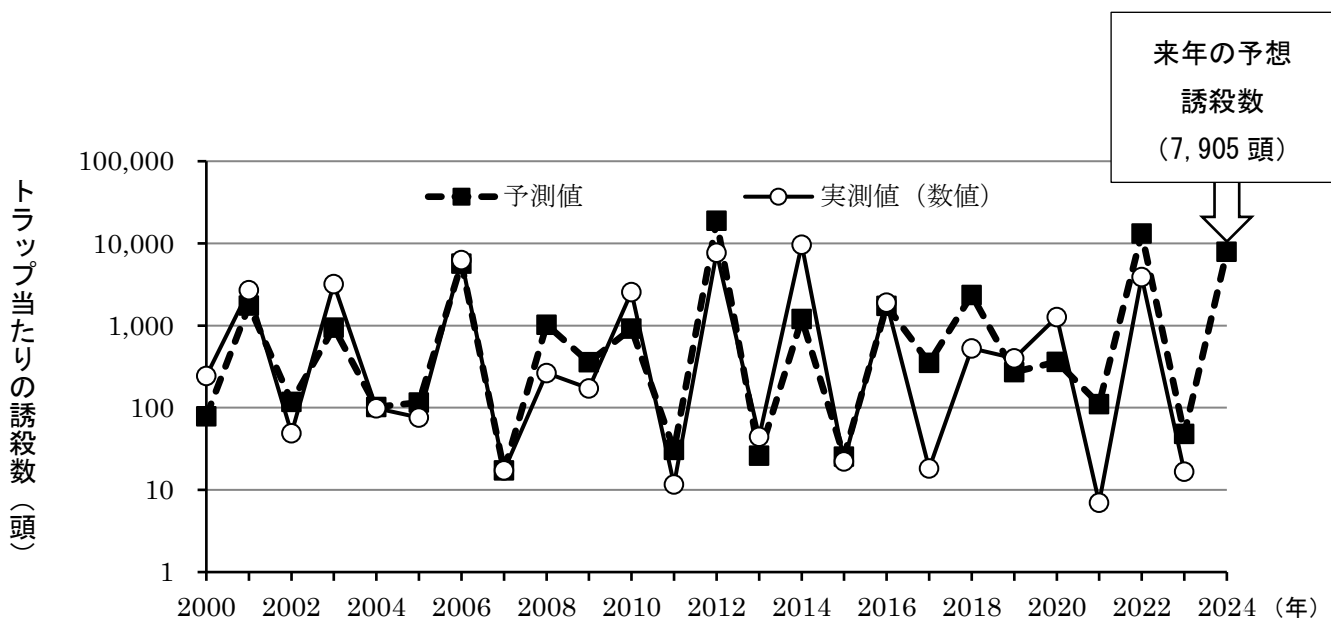


図 チャバネアオカメムシフェロモントラップ予測誘殺頭数及び実測誘殺頭数の年次変動

参考資料

○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（水稻・果樹・夏秋トマト：8月下旬、サツマイモ・ラッカセイ・サトイモ・秋冬ネギ：9月上旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
イネ (県内全域)	いもち病(穂いもち)	発病穂率(%)	0.02	0.10	0.02	
	紋枯病	発病度	2.00	2.45	4.28	
	縞葉枯病	発病株率(%)	1.39	0.74	2.00	
	ごま葉枯病	発病株率(%)	11.94	12.25	8.06	
	稲こうじ病	発病株率(%)	0.06	0.33	0.06	
	イネクロカメムシ	25株当たり寄生成幼虫数	0.13	0.34	0.04	
	ニカメイガ	被害株率(%)	0.23	0.03	0.12	
	イチモンジセセリ	25株当たり被害苞数	0.00	0.00	0.00	
	コブノメイガ	上位2葉被害株率(%)	0.00	0.10	0.00	
	セジロウンカ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.04	2.69	0.59	
	トビイロウンカ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.00	0.00	0.00	
	ヒメトビウンカ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	51.39	28.17	30.96	
	ツマグロヨコバイ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	146.87	91.88	181.84	
	クモヘリカメムシ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.68	0.91	0.32	
	ホソハリカメムシ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.03	0.23	0.22	
	イネカメムシ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.23	0.22	0.26	
	シラホシカメムシ類	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.16	0.04	0.13	
	ミナミアオカメムシ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.00	0.02	0.03	
	大型斑点米カメムシ類	捕獲ほ場率(%)	40.58	33.09	33.82	
アカヒゲホソミドリカスミカメ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.03	0.06	0.01		
アカスジカスミカメ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.35	0.55	0.43		
サツマイモ (印旛、香取)	ハスモンヨトウ	100葉当たり寄生幼虫数	0.00	0.08	0.00	
	ナカジロシタバ	100葉当たり寄生幼虫数	0.40	0.95	2.00	
	イモキバガ	被害葉率(%)	2.40	7.21	10.00	
		100葉当たり寄生幼虫数	0.00	1.27	3.20	
ラッカセイ (千葉、君津)	そうか病	発病度	0.00	0.01	0.00	
	褐斑病	発病度	13.40	26.89	11.35	
	黒渋病	発病度	0.10	0.46	0.00	
	白絹病	発病株率(%)	2.10	2.91	2.20	
サトイモ (印旛、香取、君津)	汚斑病	発病葉率(%)	12.80	8.50	10.55	
	アブラムシ類	成幼虫寄生程度	5.70	12.62	12.95	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率	6.00	3.83	3.64	
	ハダニ類	雌成虫寄生程度	3.00	9.65	2.15	
秋冬ネギ (山武、長生)	黒斑病	発病度	0.00	2.32	0.90	
	さび病	発病度	0.00	0.00	0.00	
	べと病	発病株率(%)	0.00	0.04	0.00	
	ネギアザミウマ	被害度	12.70	28.16	27.30	
		成幼虫寄生株率(%)	11.60	41.82	26.40	
	ハスモンヨトウ	被害株率(%)	0.00	0.08	0.00	
	シロイチモジヨトウ	被害株率(%)	3.20	0.08	0.40	
	ネギコガ	被害株率(%)	0.80	0.16	0.00	
	ネギハモグリバエ	被害度	8.80	6.79	4.90	
夏秋トマト (印旛、山武)	灰色かび病	発病株率(%)	1.00	0.08	0.00	
		発病果率(%)	0.00	0.00	0.00	
		果実発病度	0.00	0.00	0.00	
	すすかび病	発病株率(%)	9.50	8.50	3.11	
	黄化葉巻病	発病株率(%)	4.13	1.11	1.78	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	タバコガ類	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.40	0.00	
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率(%)	15.50	8.04	31.56	
	タバココナジラミ	成虫寄生株率(%)	16.00	3.22	14.22	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.04	0.00	
	ハモグリバエ類	幼虫寄生株率(%)	0.00	1.23	7.11	
	アザミウマ類	成幼虫寄生株率(%)	0.00	6.73	1.33	

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
ナシ (県内全域)	黒星病	発病葉率 (%)	0.26	0.77	0.71	
	ハマキムシ類	被害葉率 (%)	0.00	0.06	0.03	
	ハダニ類	雌成虫寄生葉率 (%)	0.29	2.50	1.06	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率 (%)	0.06	0.40	0.15	
	吸ガ類	被害果率 (%)	0.09	0.09	0.00	
	カメムシ類	被害果率 (%)	0.73	0.11	0.28	
温州ミカン (安房)	そうか病	果実発病度	0.48	0.15	0.08	
	かいよう病	果実発病度	0.00	0.00	0.00	
	黒点病	果実発病度	0.00	0.13	0.00	
	カメムシ類	被害果率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	ヤノネカイガラムシ	成幼虫寄生葉率 (%)	0.00	0.02	0.00	
	ミカンハダニ	雌成虫寄生葉率 (%)	0.60	3.17	21.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率 (%)	0.00	0.60	0.00	
	ミカンハモグリガ	幼虫寄生葉率 (%)	0.00	0.39	0.00	

トラップ月間誘殺数 (8月) \*種類別の単位の違いに注意

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数			備考
			本年値	平年値	前年値	
水稻予察灯	イネミズゾウムシ	千葉、香取、安房	0.6	18.3	13.4	頭/月
	セジロウンカ	〃	0.0	3.7	2.9	
	トビイロウンカ	〃	0.0	0.2	0.0	
	ヒメトビウンカ	〃	14.2	14.6	4.3	
	ツマグロヨコバイ	〃	214.8	645.6	682.9	
	フタオビコヤガ	〃	14.5	29.2	11.6	
	ニカメイガ	〃	44.5	3.7	8.6	
	コブノメイガ	〃	0.0	0.0	0.0	
	イネクロカメムシ	〃	70.6	78.3	32.1	
	クモヘリカメムシ	〃	46.5	19.7	9.1	
	ホソハリカメムシ	〃	2.9	1.7	3.9	
	シラホシカメムシ類	〃	0.0	-	-	
	イネカメムシ	〃	47.4	51.4	79.1	
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	〃	37.1	27.9	4.6	
	アカスジカスミカメ	〃	158.7	138.1	65.0	
ミナミアオカメムシ	〃	8.7	34.7	3.9		
果樹予察灯	チャバネアオカメムシ	安房	24.2	16.7	11.1	頭/月
	クサギカメムシ	〃	56.1	20.4	13.3	
	ツヤアオカメムシ	〃	13.5	2.4	1.1	
	カメムシ類	〃	93.9	39.5	25.6	

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数			備考
			本年値	平年値	前年値	
性フェロモン	ドウガネブイブイ	印旛、香取	1.68	2.20	1.48	頭/日
	ヒメコガネ	印旛、香取	5.32	16.98	11.92	
	コナガ	海匝	0.05	0.30	0.20	
	ハスモンヨトウ	県内全域	10.82	12.23	11.54	
	シロイチモジヨトウ	県内全域	3.12	1.31	3.05	
	オオタバコガ	県内全域	4.72	1.98	3.41	
	タバコガ	県内全域	2.00	0.71	0.87	
	ナシヒメシンクイ	東葛飾、印旛	1.65	1.25	1.42	
	モモシンクイガ	東葛飾、印旛	0.00	0.01	0.00	
	シンクイムシ類	東葛飾、印旛	1.65	1.25	1.42	
	チャハマキ	東葛飾、印旛	0.01	0.11	0.06	
	チャノコカクモンハマキ	東葛飾、印旛	0.35	0.60	0.22	
	ハマキムシ類	東葛飾、印旛	0.36	0.71	0.28	
	チャバネアオカメムシ集合フェロモン	チャバネアオカメムシ	県内全域	0.56	6.01	
ツヤアオカメムシ		県内全域	0.01	0.05	0.07	
クサギカメムシ		県内全域	0.01	0.07	0.11	
カメムシ類		県内全域	0.58	6.13	18.87	
マルボシヒラタヤドリバエ (天敵)		県内全域	0.02	0.11	0.19	

## ○気象予報

9月7日気象庁発表

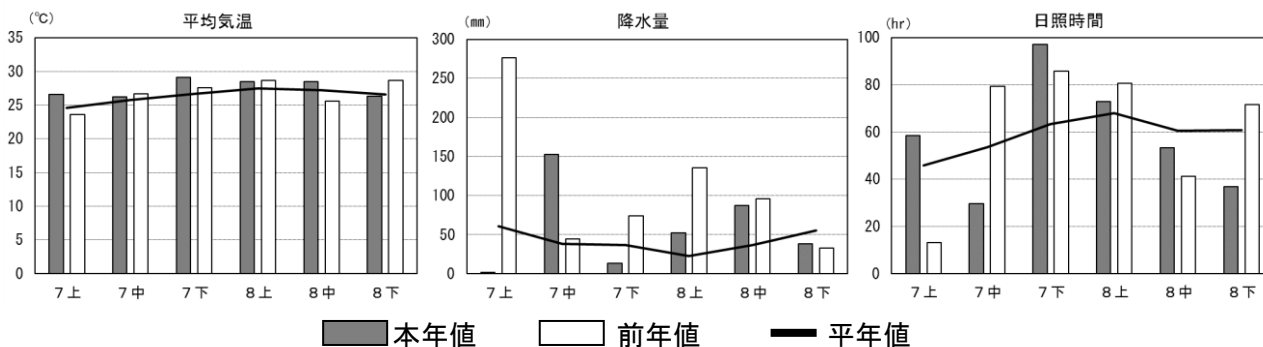
向こう1か月間の各気象要素の平年値

関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%) (9月9日~10月8日)

要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	10	10	80
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	22.4	22.3	22.4
降水量(mm)	228.1	261.2	245.7
日照時間(hr)	125.3	144.2	139.1

出典：気象庁ホームページ



## 農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前使用日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

・病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>

・次回の発行予定は10月18日です。なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。

・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。

<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp

